

第3学年 総合的な学習の時間指導案

平成27年6月26日(金)

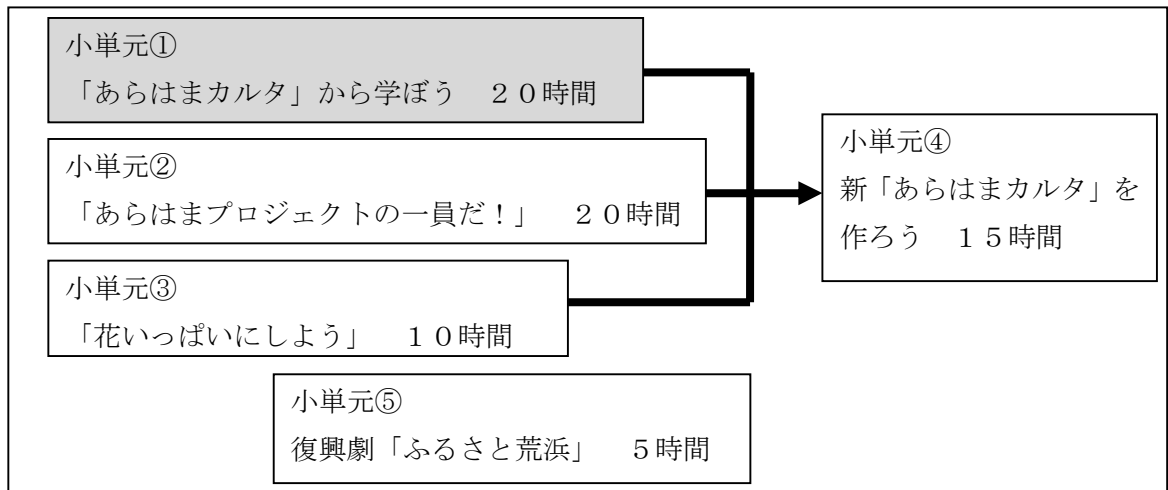
仙台市立荒浜小学校

指導者 教諭 千葉 俊介 (T1)

大内 恵美 (T2)

場所 3年1組 教室

- 1 単元名「めざせ 荒浜はかせ！」
小単元名「あらはまカルタ」から学ぼう
- 2 年間指導計画における本単元の位置付け



3 小単元①の概要

① 小単元①の目標

「あらはまカルタ」で取り上げられている人や場所を調べたり，荒浜地域や荒浜の復興に携わる人たちとかかわったりすることで，「荒浜」のよさを知り，そのよさを未来へ伝えようとする。

② 小単元①で育てようとする資質や能力及び態度

【見いだす力】

ア 「あらはまカルタ」の中から，課題を見つけ，設定する。

【いかす力】

イ いくつかの選択肢から手段を選び，情報を収集する。

【みつめる力】

ウ 未来の荒浜に対する思いや復興への願いを持つ。

【かかわる力】

エ 荒浜地域の人やものと自分からかかわろうとする。

4 小単元①の評価規準

観点	見いだす・いかす力	みつめる力	かかわる力
単元の評価規準	<p>① 「あらはまカルタ」の内容や地域探検，地域の方々へのインタビューを通して，課題を見付け，設定することができる。</p> <p>【見いだす力】</p> <p>② 地域探検やインタビューなど，いくつかの手段の中から，適切な手段を選び，情報収集することができる。</p> <p>【いかす力】</p>	<p>① 荒浜地域の未来の姿を想像し，復興への願いを持つことができる。</p> <p>【みつめる力】</p>	<p>① 荒浜について知るために，自分から地域の人やものとかかわることができる。</p> <p>【かかわる力】</p> <p>② インタビュー等を通して，地域の人や復興に携わる人々の荒浜への思いや願いに気付くことができる。</p> <p>【かかわる力】</p>

5 小単元①について

(1) 教材観

震災以前の荒浜地域は，貞山堀や松林，深沼海岸，緑豊かな田畑など，たくさんの自然に囲まれていた。それらの自然は，荒浜に住む人々にとって生活の一部であり，なくてはならないものだった。震災により，家や建物が流され，人々の居住地が離れ離れになるなど，大きな人的・物的被害は受けたが，それでも，荒れた田畑を耕して農業を再開させるなど，昔の荒浜のよさを引き継ぎ，将来に残そうと活動する人々もいる。震災の影響で，地域が分散している状況の今だからこそ，荒浜の昔ながらのよさや，昔から今に続く伝統を知り，願いを持って荒浜の未来を考えることが，子供たちに必要であると考えた。

そこで，本単元では，現4年生が作製した，「あらはまカルタ」を活用することにした。「あらはまカルタ」には，震災以前の荒浜地域の自然環境のよさや，生き生きとした人々の暮らしの様子，震災で被害を受けても，荒浜地域の復興のために頑張る人々の姿が描かれている。この「あらはまカルタ」を使うことで，荒浜をもっとよく知りたいという子供たちの意欲を喚起し，荒浜地域のよさを知るきっかけとしたい。

「あらはまカルタ」を手掛かりに，地域をより深く知り，地域の方々の荒浜に対する思いに気付くためには，地域の方々に話を聞く機会や荒浜に足を運ぶ機会を計画的に設定することが必要である。荒浜地域についての理解を深め，地域の人々の思いや願いに触れることのできる本単元の学習は，子供たちが自分たちの生まれ育った荒浜地域に愛着や誇りを持つこと，そして，未来の荒浜に対して夢や希望を持つことにつながると思われる。

(2) 児童観

本学級は男子4名からなる少人数学級である。震災当時は3～4歳で、荒浜地域での生活経験が少なく、震災以前の記憶は曖昧である。小学校に入学したばかりの頃は、「津波を見てみたい。」「ヘリコプターで救助されたい。」などといった発言がみられたものの、2年生になり、自分が体験したことを、「怖かった。」「寒かった。」「もう少し逃げるのが遅かったら大変だった。」などと正しく認識し、言語化できるようになってきた。

また、昨年度は、非常持ち出し袋に焦点を当て、自分や自分の家族に必要な非常持ち出し袋の中身を考える学習を行った。震災時の記憶が曖昧な子供たちだが、地域の方々から震災当時の様子や震災後に必要だと感じた物などを聞き取り、そのアドバイスをもとに、非常持ち出し袋の中身を考え、実際に自分と家族のための非常持ち出し袋を作ることができた。このようにして、子供たちは、地域の人から聞いた話を自分たちの生活に生かすという経験をし、地域の方々と直接的にかかわることの大切さを実感してきた。

しかし、今現在、震災の影響により、荒浜は居住できない地域がほとんどであり、学校以外の場で、地域の人々と接する機会や地域で活動する機会は、きわめて少ない状況にある。そのため、荒浜地域に関する子供たちの知識や地理的理解は非常に乏しい。それを補うために、教師が情報を精選して提供し、理解を深めさせるための努力が必要といえる。

(3) 指導観

上記のように、子供たちは荒浜に関する知識や体験がきわめて少ないため、まずは荒浜地域にあるもの、あったものの理解から学習を始める。そのきっかけとして、子供たちにとって、身近な教材である「あらはまカルタ」を活用する。そして、実際に荒浜へ行き、自分の目で現状を見ることで、地域への理解を少しでも深めさせたい。

また、見通しを持って学習に臨めるよう、「あらはまカルタ」を子供から分類の視点として出された「昔・今・未来の荒浜」の三つに分けて考えていく。震災以前を「昔」、震災後を「今」、そして、大人になったときを「未来」と分類した。

荒浜の昔の様子やよさについては、地域に足を運んでも理解することが難しいので、地域の方々にゲストティーチャーとして来ていただき、話を聞かせてもらう。そして、地域の方々が昔も今も変わらず荒浜地域に愛着を持っていることに気付かせたい。

荒浜の今の様子について理解するための方法としては、現地に足を運ぶことをメインとする。また、震災以降も荒浜の昔ながらのよさが残っていることに気付かせるため、本単元以外の学習で得られた情報も関連させる。小単元②「荒浜プロジェクトの一員だ!」では、地域の復興のために力を尽くす「仙台あらはま」の人からの聞き取りなども行っていきたい。

未来の荒浜について考えることは、「荒浜が〇〇になってほしい。」「荒浜で〇〇がしたい。」など、自分が生まれ育った地域への願いを持つことにつながる。荒浜をこれからも大切にしたいという確かな思いや願いを持たせるため、地域の人々のつながりや思いを感じ取らせたい。そして、最終的には、子供たちのいう夢や希望がいつばいつまった「未来」の札を作り、「新あらはまカルタ」が「昔、今、そして未来」への架け橋となることを願う。

6 研究の視点と研究との関わり（手立て）

【視点1】児童が主体的に取り組むことができる教材の開発

- ① 「あらはまカルタ」を活用した、「新あらはまカルタ」の作製
- ② 学習課題の設定と提示の工夫
- ③ 児童の視覚に訴える資料の活用

【視点2】学びを整理し、考えを深めていくことができる単元構想の工夫

- ① 子供たちに学習の見通しを持たせるための工夫
 - ・ 「あらはまカルタ」を、「昔・今・未来」の三つに分類する。
 - ・ 同じ学習の流れを繰り返す。
- ② ゲストティーチャー（地域の方々）の計画的な活用

7 指導と評価の計画（20時間扱い 本時17／20）

段階		学習活動	評価規準
「あらはまカルタ」から気付こう	課題	○ 「あらはまカルタ」をもとに、学習のテーマを設定する。(2)	見・い①
	情報	○ 「あらはまカルタ」から自分が知りたい荒浜の「もの・こと」を選び出す。(1)	
	情報	○ 荒浜について知るための手段を考える。(1) ・ 「あらはまカルタ」を作った現4年生に聞く。 ・ 実際に現地に足を運ぶ。 ・ 地域の人に話を聞く。	見・い② か①
	整理	○ 荒浜を探検し、自分たちが知りたかった荒浜の「もの・こと」について知る。(2) ○ 探検をして分かったこと、分からなかったことを整理する。(1) ○ 「あらはまカルタ」の札を「昔・今・未来」に分類し、内容を把握する。(2)	
荒浜の昔を知ろう	課題	○ 分類した「あらはまカルタ」から昔の荒浜の知りたい「もの・こと」を考える。(2)	見・い① か①, ②
	情報	○ 地域の方から話を聞き、昔の荒浜の様子やよさを知る。(2)	
荒浜の今を見つめよう	課題	○ 荒浜を探検し、今の荒浜の様子を知る。(2)	見・い② か① か②
	情報	○ 探検したことをもとに、荒浜に今あるものや活動する人々の存在を把握する。(1)	
荒浜の未来を考えよう (本時 17／20)	整理 まとめ	◎ 貞山堀のよさに気付き、未来の貞山堀への願いを込めた、仮の読み札を作る。(1)【本時】	み①
		○ 深沼海岸のよさに気付き、未来の深沼海岸への願いを込めた、仮の読み札を作る。(1)	み①
		○ 荒浜の農業を支える人たちの思いに気付き、未来の荒浜の農業への願いを込めた、仮の読み札を作る。(1)	み①
		○ これまでの学習を振り返る。(1)	

8 本時の指導

(1) 本時のねらい

貞山堀について調べたことや考えたことをもとに、未来への願いを込めて仮の読み札を作ることができる。

(2) 指導過程

過程	主な学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点・評価 ・ T2 の動き
導入 5分	1 荒浜の昔と今を比べる。 (1) 「今」の貞山堀の写真を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りに何も無い。 ・ 貞山堀の中にも何も無い。 ・ 生き物はいなさそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貞山堀の昔の様子と今の様子を比較するため、写真資料を掲示する。 【視点1③】
3分	2 学習のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 船がある。 ・ 周りに家がいっぱい。 ・ 生き物がいそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に「未来」を印象付けるため、T2 が白紙を提示し、学習課題につなげる。 【視点1②】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 未来の読み札はどうしたらできるだろう。 </div>		
展開 10分	3 地域の人々の貞山堀への思いを考える。 (1) ゲストティーチャーから聞き取ったことを発表する。 (2) 地域の人たちは、貞山堀が今後どうなってほしいか考えて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貞山堀で泳いだと言っていた。 ・ 釣りもできたってよ。 ・ しじみも採っていたって。 ・ 深沼橋から飛び込むのが楽しかったと言っていた。 ・ また、釣りをしたいんじゃないかな。 ・ しじみもたくさん採りたいって思っていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲストティーチャーから聞き取った内容を掲示し、参考にさせる。 ・ 児童の発表内容に足りない部分があれば、T2 が補足する。 ・ 聞き取った内容をもとに、地域の人たちの、未来の貞山堀への願いを考えさせ、発表させる。

5分	4	未来の貞山堀を自分はどうか考えたか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元に戻したい。 ・ もっときれいにしたい。 ・ きれいにして泳ぎたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲストティーチャーからの聞き取りや荒浜探検で見てきたことをもとに考えさせる。
5分	5	未来の読み札に入りたいことは何かを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ こうなってほしいということ。 ・ 夢かな。 ・ 願い事だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の願いや地域の人たちの思いが、未来の読み札に入ることを確認する。 ・ まとめを板書し、児童が札を作る際の手掛かりとさせる。
15分	6	未来の貞山堀に対する願いを込めて、仮の読み札を作る。 (1) カルタ用の札に書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">ごみのない きれいな水だよ てい山ぼり</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">てい山ぼりに みんなでとびこみ およぎたい</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">魚つり たくさんつれるぞ てい山ぼり</div>	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p><評価> 未来の貞山堀に対する願いを込めて、仮の読み札を作ることができる。【みつめる力】 (読み札, 発言)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲を持って書けるようにカルタ用の札を準備する。
		(2) 書いた札を発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が〇〇したいっていう気持ちが入っているね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ たくさん書いた場合には、その中で一番良いと思う札を発表させる。 ・ それぞれの札の良さを認め、今後の活動への意欲につなげる。
まとめ 2分	7	学習の振り返りをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時以降も、本時の学習が生かせることを確認する。

(3) 評価

本時の評価規準	未来の貞山堀に対する願いを込めて、仮の読み札を作ることができる。【みつめる力】
十分満足できると判断される児童の姿	これまでの学習を生かして、未来の貞山堀に対する願いを込め、仮の読み札を作ることができる。
支援が必要と判断される児童への手立て	地域の方々の話や写真から、昔の貞山堀の様子を改めて振り返らせ、そのよさに着目させる。

(4) 板書計画

